

HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第2660地区)

WEEKLY BULLETIN

No. 40

東大阪中央ロータリークラブ

創 立 昭和47年2月20日
例 会 日 毎週月曜日 12:30~
例 会 場 所 シェラトン都ホテル大阪
事 務 所 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-38
〒543-0027 ロイヤルパークス桃坂1112号
TEL. 06(6772)2320
FAX. 06(6772)2327
E-mail:hrcr@at.wakwak.com



会 長 切 石 博 之
会 長 工 レ ク ト 浅 野 光 男
副 会 長 宮 崎 康 治
幹 事 細 川 勝 治
会 報 委 員 長 岡 田 忠 彦

BUILDING COMMUNITIES BRIDGING CONTINENTS

地域を育み大陸をつなぐ

2010~2011年度 国際ロータリー会長 レイ・クリンギンスミス

第 1811 例会 平成 23 年 5 月 30 日 (月曜日) 第 40 号

本日の例会

5月30日(月)第5例会

- ◎ソング 「四つのテスト」
◎卓 話 「マザーレイク・琵琶湖について」
(担当:小川高弘会員)
◎本日の献立 おまかせ定食

次回の例会

6月6日(月)第1例会

- ◎卓 話 「住宅の耐震性」
(担当:松浦永郁会員)
◎本日の献立 軽 食

前回の例会記録

5月23日(月)第4例会

- ◎ビジター 大阪西南RC パストガバナー 大谷 透氏
他2名

副会長挨拶

副会長 宮崎康治

話題の本「ホーキング、宇宙と人間を語る」紹介記事より

宇宙は何故、存在しているのだろうか？我々人類が、宇宙の片隅にある地球という、生命を育むには奇跡的にも最適といってよい環境を備えた惑星に現れ、繁栄を続けていられるのはなぜだろう？人類と宇宙とを支配する究極の理論があるとすれば、それはどのようなものなのか？

ホーキング博士はこれまでに「宇宙を語る」「未来を語る」「宇宙の全てを語る」などを出してきて、いずれも宇宙の謎を追いかける科学者たちの描き出した最先端の科

学的宇宙論が話題になってきた。が、今回の一冊は色合いが多少異なる。テーマに「なぜ？」を多用する哲学的要素がぐんと強まった。

しかし如何せん、宇宙の話だ。しかも、その基本には相対性理論と量子論が深く関わっているということです。ホーキング自身が提唱する「ブラックホールの蒸発理論」とか、宇宙の創世に関する「無境界仮説」理論とか言われても、すぐにぴんとくる人は少ないだろう。どこまでついていけるかは、読者の興味次第です。

「神を語る」の対極にあると言われている。博士は「人間の脳について、部品が壊れた際に機能を止めるコンピューターとみなし、壊れたコンピューターにとって天国も死後の世界もない。それらは闇を恐れる人のおとぎ話」と述べ、死後の世界があるとの考えを否定した。また、宇宙の創造に神の力は必要ないと主張を展開し、宗教界からは批判を浴びている。

幹事報告

幹事 細川勝治

- 2月12日(土)に開催されましたIM第4組の報告書をポストに配付しています。
- 他クラブ例会変更の案内を掲示しています。

出席報告

清水委員

本日の会員数	39名
本日の出席者数	25名
本日の出席規定適用免除会員	13名
本日の出席率	75.76%
5月9日の修正出席率	78.79%

SAAニコニコ箱報告

岡本副SAA

- 細川幹事 大谷パストガバナー、例会訪問ありがとうございます。
- 松岡会員 バッチ忘れました。
- 佐井会員 先週に初内孫の誕生を祝って頂き有難うございました。
- 岡本会員 いつもいろいろお声かけて頂きありがとうございます。

卓話 「私から始める。世界が変わる。」

一般財団法人 日本国際飢餓対策機構の活動紹介 岩橋竜介

去る3月11日午後2時46分東日本を中心に、未曾有の大地震とそれに伴う大津波が発生しました。私が理事長を務めています、一般財団法人日本国際飢餓対策機構は二日後の13日に宮城県の仙台に2名のスタッフを先遣隊として派遣しました。

私どもの現地での活動は、まずは救援物資の確保と、それらの輸送、そして配布でした。交通網のマヒや、輸送手段の確保困難、物資の買い占めによる不足、様々な問題が一気に噴き出してきて、自然災害に加えて人が生み出す災害ともいえる問題が発生していました。もちろん原発の問題もその一つです。

我々が仙台でまず行ったのは、ベースキャンプの確保、資材を保管する倉庫の確保、そして物資を必要な人々に適切に届ける手段の確保でした。幸い、明泉幼稚園が我々やその他のNGOのベースキャンプとして場所を提供して下さい、現地の三菱地所さんがテナントを無償で貸して下さいました。また、救援物資の配布では、地域と密着して常日頃から活動している民生委員の方々、東北地方のキリスト教会や牧師先生との連携で、そのネットワークを用いて、どこにどんな必要があるのかを適切に把握して、活動することができました。今回の活動のキーワードは「協力」です。

被災者が被災者を支える協力も実現しました。九州で新燃岳という火山が噴火し、その火山灰が宮崎の農家を襲い、野菜の出荷ができなくなりました。しかし、神戸のNGOが協力し、十分食べられる新鮮な野菜を仙台に届け、我々がその野菜を配布したり、それを用いて炊き出しを行いました。痛みを経験した人だからこそできる具体的な協力です。

海外からの協力では、アメリカのサマリタンズパースという、世界的な援助団体と協力し、飛行機一機分の物資を受け入れるための協力や、現地での活動においても一緒に行動をしてきました。当機構の本部が八尾市にあるということもあり、八尾市の田中市長と相談し、八尾市の救援物資を当機構が輸送、配布するという協力も実現し、八尾市の支援活動にも貢献・協力することができ

ました。もう一つ協力している「パン・アキモト」という企業を紹介させていただきます。実は去る4月12日のガイアの夜明けで紹介されましたので、その映像をご覧くださいと思います。

私どもの活動は、物資の配給やがれきの撤去、掃除などの物質的な側面があるのですが、もう一つの活動は、心の支援です。確かに食料や衣類、住まいなど欠かせないものですが、それだけでは人は生きてゆけません。心のケアもやはり必要です。被災者の方々は、想像を絶する心の傷を負っていらっしゃいます。笑いたくても笑えない。いや、泣きたくても泣けない。内側に全ての感情を押し込んで、我慢しておられます。そのような中で、先日は連休明けの5月7日には被災者の方々に何とかリラックスして楽しんでもらおうと、地域のフェスティバルを行いました。

もう一つの映像を見ていただきたいと思いますが、これも心の支援の一つとして私たちが取り組んでいる活動です。心の救援物資として、歌手の森祐里さんが被災地を訪問し、歌を通して被災者の心の支援をしている様子を知ることができます。

(関西テレビ『アンカー』森ゆりさん紹介)

<まとめ>

台湾のルーカンRCや当クラブのご支援をいただき、本当に感謝します。今後もJIFHは東北での被災者支援と復興の活動を民間のNGOだからできる形で行っていきます。特に今後は居住可能な住居の修理、引き続き、物資の配給、子どもたちの心のケア、など現地の声をよく聞いてフットワークの良い支援を継続していきます。

しかし、最後にお伝えしたいことは、今回の震災で亡くなった方は行方不明者も含めると約25,000人いらっしゃいます。実は世界では毎日、同じ数の方々が飢えと貧困のために亡くなっているのです。毎日の、あの地震と津波がどこかで起こっているのと同じ数なのです。そのうちの8割は子どもたちです。私どもは今は東日本での活動を行っていますが、一日でも早く、本来取り組んできた世界の飢餓と貧困の撲滅の活動に戻らなくてはいけないと考えております。ハンガーゼロアフリカ。これからも世界に向けて貢献していきたいと願っております。あまりにも大きな問題の前に、無力感を覚えることも少なくありません。自分たちのような小さな団体が、いや自分のような小さな者が、何かをしてもどうにもならないのではないかと、思ってしまう。しかし、我々の団体を創設したラリー・ワードという方がこう言いました。「人はひとりひとり死んでいく。だからひとりずつ助けよう」。私から始める。世界が変わる。これが私たち日本国際飢餓対策機構のモットーです。そしてそれを信じて、今日も活動しています。どうぞ、今後ともご支援を賜りますように、心からお願いいたします。